

平成20年度やまぐち自然共生ネットワーク 通常総会及び活動報告会の実施概要

〔通常総会〕

- 1 日 時 平成20年5月24日(土) 10:00~12:00
- 2 場 所 山口県旧県会議事堂議場
- 3 出席者 60名
- 4 概 要

庫本会長のあいさつ(別紙参照)に続き、横山県環境生活部次長の来賓あいさつが行われた後、白井理事が議長に選出され議事が行われた。

(司会進行:田中事務局長)

(1) 通常総会

(第1号議案)平成19年度事業報告について(承認)

(第2号議案)平成19年度収支決算報告について(承認)

(質問)受託金30万円は、平成18年度の事業に係るものとあるが、19年度ではないのか。

(回答)18年度に実施にした事業に係る清算金が19年度に振り込まれたため計上した。19年度は受託事業を行っていない。

清木監事より監査の結果、適正であった旨報告あり。

(第3号議案)平成20年度の運営方針と会費の徴収について(承認)

(詳細は総会資料参照)

1 平成20年度の運営方針

(3)自然共生推進事業(県民協働型自然共生手づくり事業)への参画について三輪自然保護課長から事業概要の説明と積極的な参画について依頼があった。

2 会費の徴収

総会経費、ホームページの運営、会報誌の発行等、ネットワークの基本となる事業に係る経費は会費により実施することが決まった。

(1)会費の額 年額1口1,000円

(2)会員種別による納付額

個人会員	団体会員	賛助会員
1口以上	2口以上	3口以上

3 平成20年度に必要な経費と会費徴収による収入見込み

4 会員特典

会員特典として、行事参加時の優待(参加費半額)やホームページの会員専用ページの利用について説明があった。

(質問)今年度から会費を徴収することになるが、ネットワークの位置づけ方向性をきちんとしなければいけない。これまでは、民間団体なのか、行政なのかよくわからない面があった。これからは、行政と離れ事務局も民間でやっていくということか。

(回答)すぐに全てを民間でというわけにはいかないが、徐々にシフトしていきたい。

(質問)印刷経費は、1枚あたりどのくらいかかるのか。

(回答)1枚あたり、白黒が10円、カラーは30円ぐらい。

- (質問) 会費は、個人の負担が大きいのではないかと。個人をこの額にするのであれば、団体がもっと多くてもいいのではないかと。
- (回答) 会報誌の発行等に係る実費で試算した結果こうなった。当面はこの額でいきたい。
- (質問) 賛助会員とはどういう人か。
- (回答) ネットワークの趣旨に賛同して協力してくれ企業等。
- (第4号議案) やまぐち自然共生ネットワーク規約の改正について(承認)
- (意見) 会費の徴収で賛助会員を設けるのであれば、規約の中で明確にするべきではないか。
- (意見) 規約にネットワークの設立年月日を入れるべき。
- 以上2点の意見については、総会終了間際に出されたため、検討できませんでしたが、次のように考えます。
- ・賛助会員については、第5条(会員の種類)で規定している(1)正会員と(2)その他の会員の(2)その他の会員に該当する。
 - ・設立年月日は、附則の2「この規約は、平成16年7月10日から施行する」で読むことができる。
- (第5号議案) 平成20年度事業計画(案)について(承認)
- 今年度のリレーミーティング引受団体である榎野川流域地域通貨・連携促進協議会の岡事務局長より概要の説明があった。(後日御案内します)
- (第6号議案) 平成20年収支予算(案)について(承認)

〔活動報告会〕

次の3団体から、団体の紹介と日頃の活動について報告があった。

- 1 NPO 法人 水環境地域ネットワーク(WFEN(ウーフェン))(周南市)
概要)「環境について考えるには、身近な自然に親しんできた経験が大切。地域の人々と共に身近な場所で活動する。」という基本的な考え方のもと、3つの基本理念(身近な自然に触れ親しむ機会を提供する。保護・保全を試みる。将来に続く仕組みを作る)により活動している。周南市西緑地公園を主な活動場所として、周南市と連携して、「みどりの案内人プロジェクト」を実施中。昨年度は、地球環境基金助成金を受けて外来植物の侵入状況調査の実施と自然保全についての啓蒙活動を実施した。
詳細はホームページをご覧ください。<http://www.wfen.jp/indexL.htm>
- 2 本山会(もっとやろうかい)
概要)山陽小野田市本山校区の町おこしグループ。盆踊り大会の裏方作業をしていた住民が中心となって平成6年に発足。「本山会」と書いて「もっとやろうかい」と読む。地域の様々なイベント運営のサポートを行っているほか、竜王山な貴重な自然の保全活動を行っている。竜王山には、市街地の真ん中とは思えないほど豊かな自然が残っており、そこには、約200種の植物が混在している。特に、ウバユリ、コバノタツナミ、ヒトリシズカ、モリアザミ等は特筆に値する。本山地区、竜王山で見られる植物分布図を地図に記入して、自然と親しめるようにしている。
- 3 山口県農林水産部森林企画課
概要)県庁裏山(5,000㎡)は、もともと広葉樹林であったが、近年はモウソウチクが繁茂して荒廃竹林になっていたため、京都の嵯峨野の竹林をイメージして、昨年11月から県職員が伐採等の作業を進め、「全伐ゾーン」「散策ゾーン」「ベルトゾーン」「やまぐちの竹展示ゾーン」の4区域を整備した。4月13日には知事も出席して竹林フェスタを開催した。